




2026年4月期

第4四半期及び通期決算説明資料

株式会社gumi（証券コード 3903） | 2026年6月12日

目次

■ エグゼクティブサマリー	p.2
■ その他トピックス	p.22
■ 各事業の進捗	p.28
■ 業績の推移	p.31
■ Appendix	p.38

決算説明資料での初出し情報については、ページ右上に  のマークを付けております。

その他ページについては、数値等の更新をしております

本資料において、モバイルオンラインゲーム事業はモバイルゲーム事業と表記しております

■ エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー 各段階利益で黒字を達成、FY27は増収増益を目指す

暗号資産評価益等の寄与により、通期全段階利益で黒字を確保し、次期への地盤固めを完了
FY27は、大型IPタイトルリリース等により、確実な増収増益を目指す

- ✓ 主力タイトル『オラドラ^(※)』の順調な収益貢献に加え、暗号資産評価益等の計上により、通期売上高9,183百万円（前期比+2.7%）、経常利益は2,170百万円を記録し、全段階利益での黒字堅持とFY27の財務基盤構築を達成
- ✓ 『僕のヒーローアカデミア UNITED SURVIVAL（以下、「ヒロアカ」）』を2026年内にリリース予定、さらなる収益基盤の拡大へ
- ✓ 次期以降の持続的な成長に向け、新規大型グローバルIP 2タイトルの開発に本格着手
- ✓ 直近の暗号資産マーケットが下落局面であるため、暗号資産の価格を注視しつつ、取得する方針
- ✓ 米国シリコンバレーにおいて、gumi AI Labsを通じ複数の有力AIスタートアップに対し投資を実行。今後も投資を継続する方針

決算概要：2026年4月期

(百万円)

FY26	売上高	営業利益	経常利益	税引前 当期純利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
Q4	2,351	△47	197	△419	△393
通期	9,183	83	2,170	1,524	1,454

(※)「オラドラ」は「ジョジョの奇妙な冒険 オラオラオーバードライブ」を指します

エグゼクティブサマリー 各トピックスの状況

資本政策の適正化と事業整理を実施し、SBIグループとのシナジーを最大限に発揮する体制へ移行

①	資本政策	P5	1) 第26回新株予約権 (行使価額修正条項付)	昨今の株価低迷を踏まえ、未行使分の全部を取得及び消却
②	中期経営計画	P6-7	1) 3か年の振り返り	利益目標（レンジ25億円～40億円）には到達せず、レンジ中央値に対して、約47%で着地するも、前期と同水準の経常利益を維持
③	事業方針	P8-12	1) 今後の事業方針	新中期経営計画を策定中。SBIグループのネオメディア戦略の中核企業として機能することを目指す
			2) 事業セグメントの整理	SBIグループとのシナジーを最大限にするべく、既存の2事業をネオメディアエンタメ事業とネオクリプト事業に整理
			3) 新中期経営計画の骨子	ゲーム中心のネオメディアエンタメ事業とXRPを中心としたネオクリプト事業を融合したハイブリット型企业としての成長を目指す
			4) ネオメディアエンタメ事業の事業方針	川上（IP獲得）から川下（周辺エンタメ）まで「面」で収益を獲得
			5) ネオクリプト事業の事業方針	日本国内最大のXRPの保有・運用事業者を目指す
④	ネオメディア エンタメ事業	P13-16	1) IP獲得	直接、IPを保有することによるマージン率の向上
			2) ゲーム開発	『ヒロアカ』を2026年内に配信予定。新たに有力IP 2タイトルの開発に着手
			3) 周辺エンタメ	市場急拡大の予測市場へ上場企業として先駆けて参入。第一弾のポイ活「ヨックヒロバ」を6月9日リリース
⑤	ネオクリプト事業	P17-21	1) XRPの保有・運用	日本におけるXRPの最大保有・運用事業者を目指し、カバードコール等のオプション取引で安定収益を目指す
			2) Hinode Technologies (TISとの合併会社)	国内大手SIerたるTISと共同で、ノード運営・アセットマネジメントをはじめ、暗号資産会計管理システムも提供
			3) ファンド	ファンド事業の業容拡大に伴い、AI関連企業や上場暗号資産を投資対象としたファンドを立ち上げ準備
			4) AI	シリコンバレーのAIスタートアップを中心に、既に17社へ投資実行済み。今後も積極的に投資を実行していく方針

エグゼクティブサマリー ①資本政策について

昨今の株価低迷を踏まえ、第26回新株予約権（行使価額修正条項付）の未行使分の全部を取得のうえ消却（2026年6月12日決議）

背景・理由

発行の目的と調達実績

成長投資および借入金返済のため2025年10月に発行。本日までに合計約436万株が行使され、約1,500百万円を調達

今回の消却

市場動向や株価水準等を総合的に検討し、株式の需給改善および既存株主の利益保護（潜在的な希薄化懸念の解消）を図るため、未行使分の全部を取得し消却

消却の概要

発行総数 1,070万株のうち

消却対象の未行使株式数

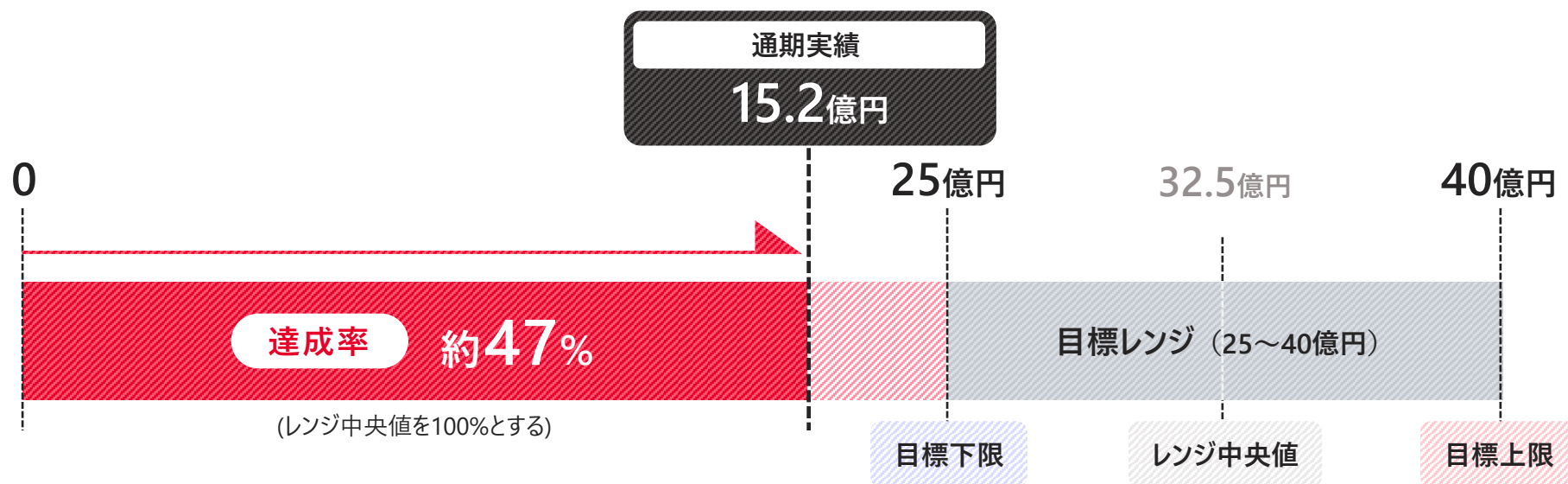
約 **634** 万株 分の潜在的な希薄化懸念を解消

エグゼクティブサマリー ②前中期経営計画最終年度（2026年4月期）の計画達成状況

通期の税引前利益は15.2億円（修正中期経営計画の目標25億円～40億円に対し、達成率約47%）

修正中期経営計画 税引前利益目標 (※1)

25～40億円



計画未達の要因

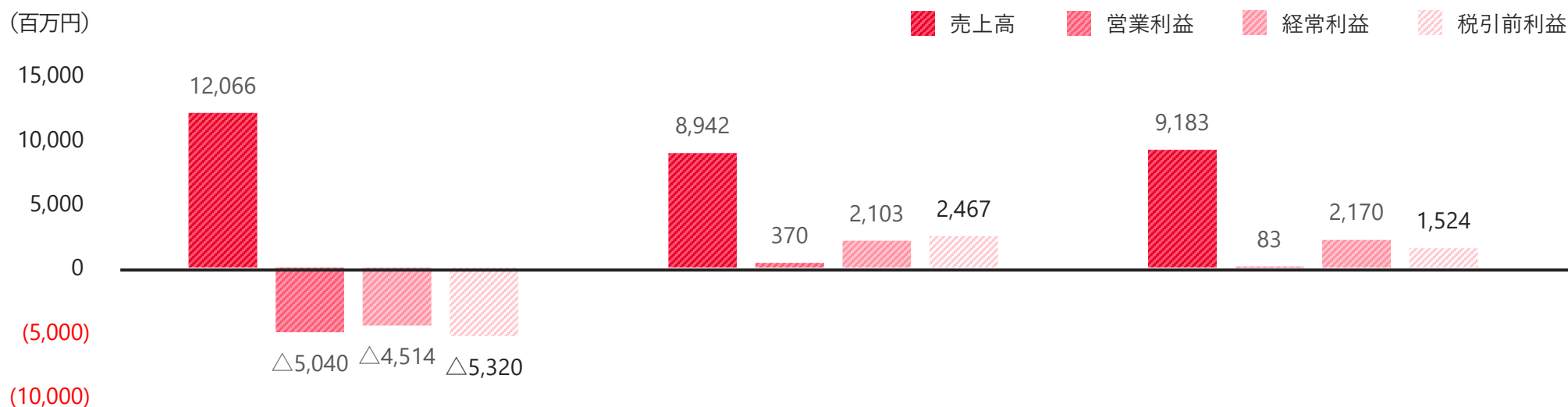
- 【モバイルゲーム事業】 受託案件の未獲得や新規タイトルからの収益貢献が想定を下回ったことが要因
- 【ブロックチェーン等事業】 協業ゲームタイトルの不振やアセットマネジメントの収益化の遅れが影響

(※1) 2023年6月に策定され、2025年6月に修正されたものを指します

エグゼクティブサマリー ②前中期経営計画の振り返り（3年間の歩み）

モバイルゲーム事業における安定した収益モデルとブロックチェーン等事業における成長基盤を確立

3か年の業績推移



2024年4月期

底打ち

経常利益 △4,514百万円

アスタタの不振による大幅な営業赤字
▶ 希望退職等の聖域なき構造改革を断行

2025年4月期

反転

経常利益 2,103百万円

- 『有力IP × 自社ゲームエンジン』戦略の確立
- OSHI3スタート
- 全段階利益で黒字を達成

2026年4月期

基盤確立

経常利益 2,170百万円

- 『オラドラ』のヒット
- 前中計の最終年度を全段階利益黒字で着地
- 安定収益フェーズへ移行

エグゼクティブサマリー ③今後の事業方針

SBIグループの戦略を受け、同社とのシナジーを最大限にするべく、**新中期経営計画を策定中(策定次第、発表予定)**。
SBIグループの中核企業の一社として、ネオメディア生態系及びデジタルスペース生態系の拡大に尽力

SBIグループの戦略

2026年5月、SBIホールディングスは「SBIネオメディアサミット2026」にて戦略を発表。
既存の金融・デジタルスペース生態系に新たなネオメディア生態系を加え、3大生態系の連動による新たな経済圏構築を提示

SBI GROUP 「3大生態系」

金融生態系

証券・銀行・保険・暗号資産まで
横断する、国内最大級の顧客基盤と
金融データを持つ総合金融インフラ

ネオメディア生態系

プラットフォーム・IP・制作スタジオ・SNS
を統合し、発掘・拡散・投融資を
連動させる感情経済圏

デジタルスペース生態系

Web3・メタバース・ブロックチェーン・
AIが融合した、リアルとデジタルを
シームレスに結ぶ経済圏

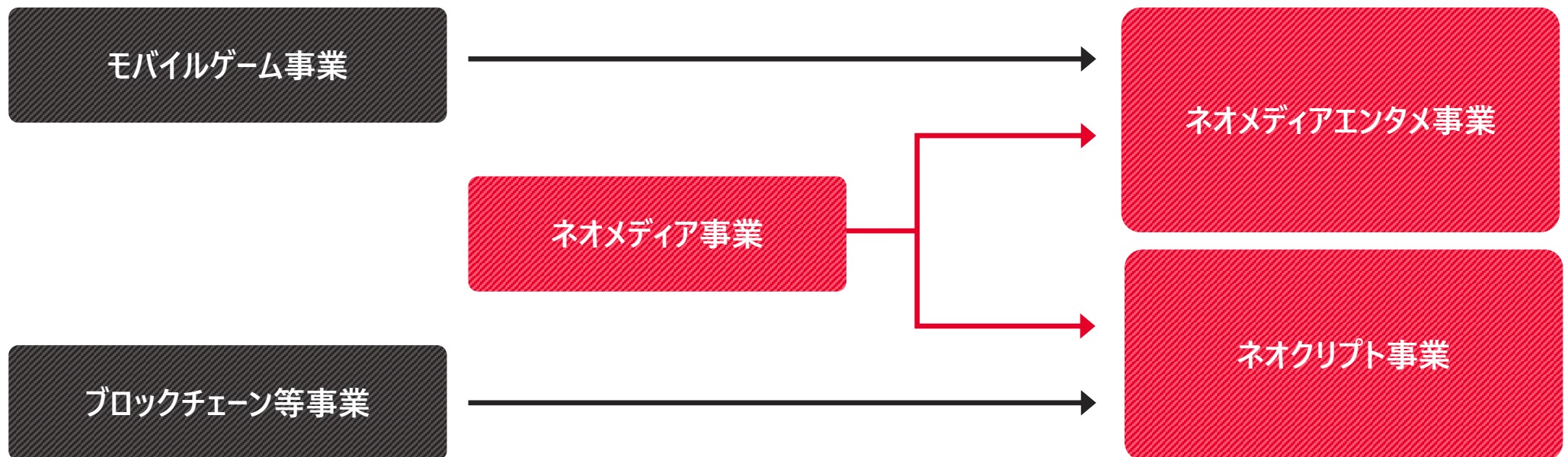
 **gumi** 推進領域

エグゼクティブサマリー ③事業セグメントの整理

SBIグループのネオメディア戦略を踏まえ、シナジーを最大限にするべく、事業セグメントを整理

現在

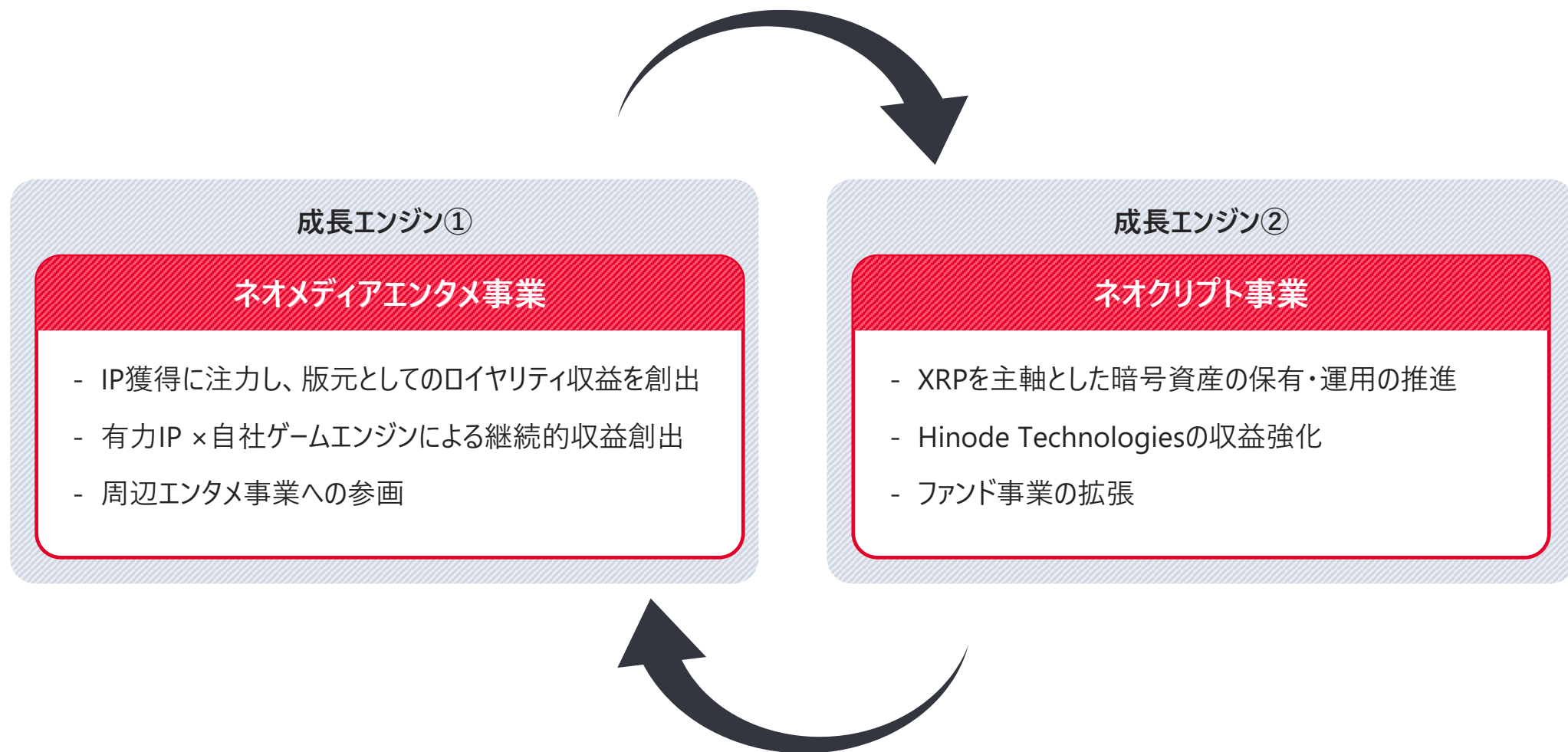
今後



SBIネオメディアサミット2026（2026年5月）での戦略発表を契機に、gumiは新たな成長フェーズへ

エグゼクティブサマリー ③中期経営計画（現在策定中）の骨子

ゲーム中心のネオメディアエンタメ事業と
XRPを中心としたネオクリプト事業を融合したハイブリット型企业としての成長を目指す



エンタメ収益をXRP運用の原資へ投下、その運用益をさらにIPへ再投資する
「実需（コンテンツ）」と「金融（保有・運用）」の持続的な成長スパイラルを構築

③ネオメディアエンタメ事業の事業方針

ゲーム収益に依存しない新体制へ移行

川上（IP獲得）から川下（周辺エンタメ）まで「面」で収益を獲得し、安定的な収益基盤へ

これまで

▶ ゲーム配信・ガチャ売上のみのヒット依存

収益源：

単一依存

- ヒット作の成否に業績が大きく左右される
- 市場成熟により競争が激化

今後

▶ 川上～川下までを網羅し安定収益を創出

収益源：

複数基盤

- 複数の収益源で安定的にCFを創出
- 開発リスクをヘッジしつつ、大型IPヒット時の上振れも確保

3つの収益エンジン

エンタメバリューチェーン全域をカバー



1 IP獲得(ゲーム外収益)

製作委員会出資・著作権確保

- SBIグループとの協働により、独占ゲーム化権を川上から確保し、版元としてロイヤリティ収益も獲得

2 ゲーム開発

オラドラ・ヒロアカ等

- 『オラドラ』の収益基盤を維持しつつ、『ヒロアカ』(2026年内配信)を始めとする大型IPを連続投入

3 周辺エンタメ

予測市場・公式二次創作等

- 事業リスクを極小化したモデルで、ゲーム以外の収益領域を拡大

エグゼクティブサマリー ③ネオクリプト事業の事業方針

ステーキング中心の運用から、XRPへの集中とオプション取引等による積極的運用へ移行

これまで

▶ 複数の暗号資産の保有並びにステーキング中心の運用

利回り：

低下

- マーケット悪化により利回りが大幅に低下
- 現行モデルでは、十分な収益を確保できない構造

今後

▶ 日本におけるXRPの最大保有・運用事業者を目指す

利回り：

最大化

- gumi本体では、原則XRP一本化で運用効率を向上
- オプション取引等による積極的な運用で利回りを改善

3つの事業の柱

1 XRPの保有・運用

主軸

- 価格を注視しつつ、XRPの取得を継続
- 保有暗号資産（約140億円^(※)）をXRPへ適宜移行
- カバード・コール等のオプション取引で安定収益を創出

2 Hinode Technologies

ストック収益の積み上げ

- リバランス戦略・インフラ外販で収益を強化
- Web3会計SaaSによるストック収益の積み上げ

3 ファンド事業

アセットマネジメント事業拡大

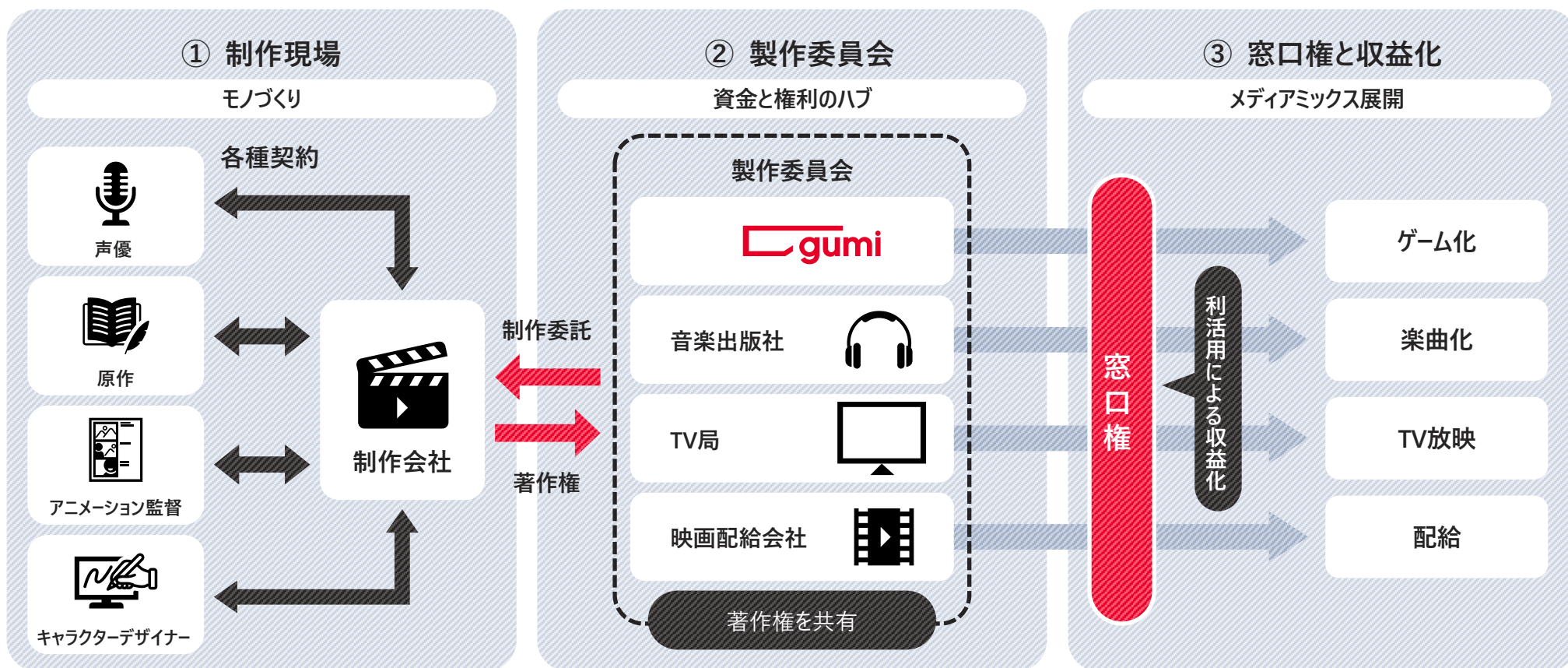
- gumi Cryptos 1号、2号、DECIMA 1号の既存ファンドからの大型回収を目指す
- ファンドの業容拡大を受け、gumi Cryptos Capital 3号、DECIMA 2号の設立も検討開始
- SBI Crypto Fundを早期に始動し、アセマネ事業を本格化。ETF等の個人投資家向け商品も視野

(※) 2026年4月末時点における当社グループの暗号資産残高

エグゼクティブサマリー ④ネオメディアエンタメ事業：IP獲得

製作委員会への出資を通じ、企画段階から参画し、収益性の高い「独占ゲーム化権」を獲得
版元としてのロイヤリティ収益も発生し、マージン率の向上を見込む

既にアニメ、音楽を含め複数のプロジェクトが進行中



リスク 原作がヒットしない可能性（投資回収リスク）

対策 当社がこれまで培ってきたIPの目利き力により、有望なIPを厳選しリスクを低減

エグゼクティブサマリー ④ネオメディアエンタメ事業：ゲーム開発

主力IPタイトル『オラドラ』が通期収益を牽引

NEXT IPタイトル『ヒロアカ』の2026年内リリースで更なる収益拡大を見込む

新たに有力IP 2タイトルの開発に着手 さらに新たな有力IPタイトルを企画提案中

▶▶▶ 『オラドラ』で実証した成功モデルを、NEXT IPタイトルで横展開 ▶▶▶



『ジョジョの奇妙な冒険
オラオラオーバードライブ』

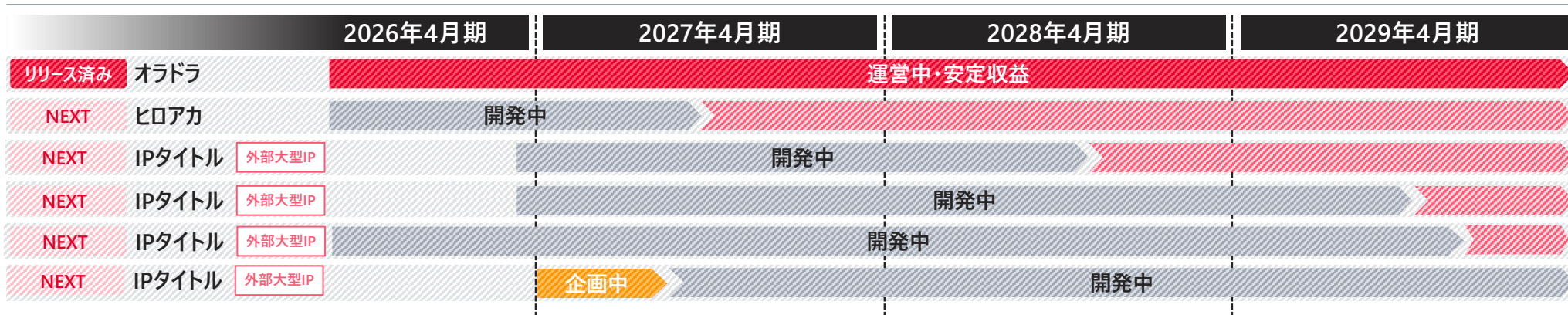
通期収益を牽引



『僕のヒーローアカデミア
UNITED SURVIVAL』

2026年リリース予定

配信スケジュール（受託除く）



エグゼクティブサマリー ④ネオメディアエンタメ事業：周辺エンタメ

グローバルで市場が急拡大している予測市場へ、上場企業として先駆けて参入
第一弾として、ポイ活サービス「ヨックヒロバ」を6月9日にリリース
本サービスの反響をふまえて、本格事業化を検討

みんなで未来を予測する参加型プラットフォーム



予測結果から、期待値・関心度・購買意向などのインサイトを可視化し、当該データの収益化を目指す



今後の成長ドライバー

- 1** W杯予想キャンペーンによる初期ユーザー数拡大

 - サッカーW杯全試合の勝敗を予想（賞金キャンペーンを実施）
- 2** SNS・インフルエンサーによる拡散

 - 若年層コミュニティ内での自然拡散を促進
- 3** 7月以降のGunosy連携

 - 「グノシー」コンテンツ内で予測コンテンツを提供予定
- 4** 予測型広告商品の展開

 - 企業の商品・サービス・コンテンツに関する予測企画を広告商品化

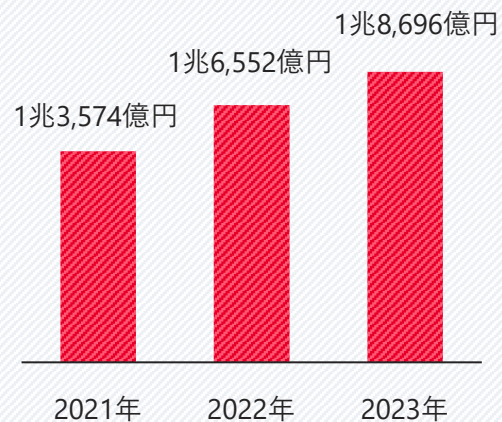
エグゼクティブサマリー ④ネオメディアエンタメ事業：周辺エンタメ

公式二次創作プラットフォームの実証実験の成果を踏まえ、事業化を目指す

背景

二次創作市場の規模が拡大するなか、公式に認められたIPの二次創作が求められることから、実証実験を開始

国内クリエイターエコノミー市場規模



出典：「国内クリエイターエコノミーに関する調査(2024)」
三菱UFJリサーチ&コンサルティング

実証実験 『公式二次創作グッズ市』の成果

クリエイターが求める「安心」と、権利元が求める「適正な管理」を橋渡しする仕組みをスカパーJ S A T、日立ソリューションズと共同で構築



- ▶ イベント開催期間
2026年2月20日～2026年4月19日
- ▶ ゴール
クリエイターの在庫リスクを軽減。
許諾から販売、ライセンス料支払まで一元管理し、複雑な手続きの簡略化を実現

今後の事業展開

権利元、クリエイター、ファンとの協創を通じて、日本の創作文化・サブカルチャー(コンテンツ関連市場)のさらなる発展を牽引する新たな仕組みを確立へ

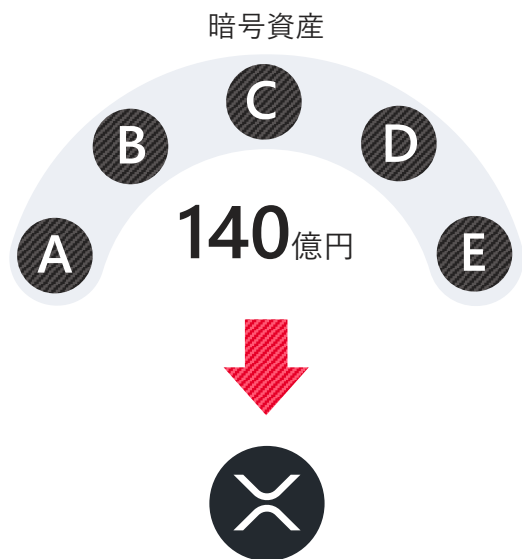


また、AIを活用し、二次創作におけるクリエイティブ制作や監修・管理の高度化を実現させることで、日本IPの市場価値向上に繋げることを検討

エグゼクティブサマリー ⑤ ネオクリプト事業：XRPの保有・運用

国内最大のXRP保有・運用事業者を目指し、オプション取引等の積極運用により収益を最大化

運用資産の集約

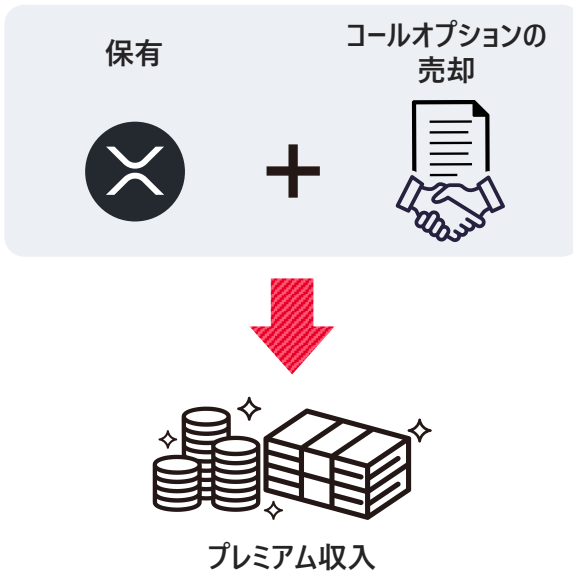


現状 多数の種類暗号資産を保有

アクション 順次、保有暗号資産のXRPへの変換及び新規取得

「分散」から「高流動性資産への集中」

運用戦略の実行



アクション XRPを原資産としたカバードコールの実行

XRPを現物保有しながら、将来一定の価格で買う権利（コールオプション）を売却し、オプション料を獲得

戦略の狙いと期待効果



インカムゲインの創出

オプション料（プレミアム）による継続的な利回りの確保

資産の有効活用

単なる「保有」から、収益を生み出す「アクティブ運用」への転換

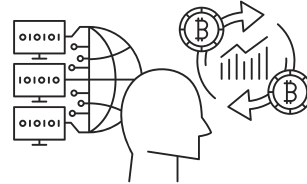
リスクコントロール

獲得したプレミアム収入が、価格下落時のクッションとして機能

エグゼクティブサマリー ⑤ ネオクリプト事業：Hinode Technologies(TISとの合併会社)

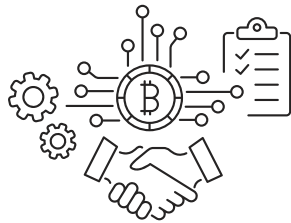
Hinode Technologiesにおいて、両社の強み（ノード運営・アセットマネジメント×システム開発）を融合し、早期の収益化を実現

ノード運営・アセットマネジメント



有カブロックチェーンにおけるノード運営を通じた
バリデータ報酬・ステーキング報酬および
獲得した暗号資産の自己運用

暗号資産会計管理システムの提供



上場企業が暗号資産を会計監査に適應して取り
扱うために必要となる管理システムの開発と提供



スマートコントラクト開発



Solidity、Move、DAMLに對應した
スマートコントラクト開発支援

エグゼクティブサマリー ⑤ネオクリプト事業：ファンド

gCC 1号・2号・DECIMAの強固な運用実績を基盤に、
SBI Crypto Fundによる更なる事業拡大へ

- ✓ 既存ファンドの実績をもとに、gCC3号（AI領域含む）、DECIMA 2号（上場暗号資産含む）の設立も検討開始
- ✓ SBI Crypto Fundは、個人投資家向け金融商品の開発も見据え、推進

ファンド規模		
2018年設立 gumi Cryptos Fund I	21M USD	<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; text-align: center;">回収 フェーズ</div> <ul style="list-style-type: none"> - 投資倍率：7.6倍 当社への帰属分：約60億円（2026年5月末時点） - シリコンバレーの暗号資産・web3シード案件に投資 - 既に元本回収を達成し、さらに追加リターンを見込む
2022年設立 gumi Cryptos Fund II	110M USD	<div style="background-color: #ffcccc; padding: 5px; text-align: center;">成長 フェーズ</div> <ul style="list-style-type: none"> - 現在、62件に投資実行、消化率約80%（2026年5月末時点） - シリコンバレーの暗号資産・web3シード案件を中心に展開 - 成長余地の大きい複数案件で収益拡大を狙う
2024年設立 DECIMA*	40M USD	<div style="background-color: #ffcccc; padding: 5px; text-align: center;">成長 フェーズ</div> <ul style="list-style-type: none"> - 現在、30件に投資実行（2026年5月末時点） - 未上場案件に加えて、上場暗号資産にも投資 - 未上場と上場暗号資産を組み合わせ、収益ポテンシャルを最大化
2026年設立予定 SBI Crypto Fund	数十億円	<div style="background-color: #ff0000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">組成中</div> <ul style="list-style-type: none"> - 1stクロージングに向け、最終調整中 - これまでの実績をもとに、上場暗号資産を対象とした新たなファンドとして組成

各分野で市場を牽引する、圧倒的な実績と成長性を有するポートフォリオ

投資銘柄

gumi
Cryptos
Fund I



- **第1四半期取引高13億ドル：**
昨年未開始の新トークン取引が10億ドル超を占め、NFT取引高の3倍に成長
- **市場シェア70%超：**
依然としてNFT市場の70%以上を占め、圧倒的優位性を維持
- **累積実績：**
累積取引高480億ドル、累積収益10.8億ドルを突破



- **DeFiで30億ドル以上運用：**
多様なDeFi戦略にわたり30億ドルを超える資本を運用・配置
- **最大手ボルトキュレーター：**
パブリックボルトに約20億ドルを配分。パートナーにKrakenやMorpho等
- **Aaveでの1億ドルETHローン：**
民間資本を活用し、最大規模のマネーマーケット立ち上げのための構造化ローンを実施
- **SolanaでのPYUSD展開：**
Paxos、PayPal、Solanaとの提携で、新たに純額7億ドルのPYUSDを創出



- **預かり資産総額78億ドルに成長：**
Lidoに次ぐ業界第2位のリキッド・ステーキング・プロトコルへ
- **5,000万ドルの自社トークン買い戻し：**
プロトコル収益を原資に、価格が3ドル未満の間に実行。自己資金による還元へ移行
- **カード事業の拡大：**
アクティブカード7万枚超。2026年2にOP Mainnetへ移行し、採算性を向上予定

ARKIS

- **プラットフォーム上総融資額1億ドル突破：**
Sparkとの提携が実績を牽引
- **「Spark Prime」発表：**
Arkis基盤のCeDeFiマージンローン。補助金なしでポートフォリオ最高水準の利回り6.9%を創出
- **資本配分5億ドルへ拡大中：**
透明性と決済のマイルストーン達成に伴い、順調に進捗
- **Sparkのリスク枠組み再構築：**
1,500万ドルの試験運用完了後、Spark側のリスクフレームワーク再構築を支援



- **Alibaba Cloudとの提携：**
オンチェーンAIエージェントから「Qwen」を直接呼び出し可能に。ブロックチェーン経由のモデル公開は初
- **世界最大の分散型AIモデル：**
2025年にBittensorを48%上回る1,070億パラメータの分散型モデルをトレーニング

gumi
Cryptos
Fund II

エグゼクティブサマリー ⑤ネオクリプト事業：gumi AI Labs

シリコンバレーのAIスタートアップを中心に、既に17社へ投資実行済み
今後も積極的に投資を実行していく方針

- ✓ シード段階からの投資により、高いリターンポテンシャルを確保
- ✓ 医療・製造・モビリティ・インフラ等、複数セクターに広く投資網を展開
- ✓ 引き続き、投資を強化し、ポートフォリオをさらに拡充

投資先一覧（一部抜粋、計17社）

<p>フィジカルAI</p> <p>HABIT</p> <p>AIロボットによる自動車ケアサービス</p>	<p>画像認識AI</p> <p> dragoneye</p> <p>コンピュータービジョン自動生成基盤</p>	<p>サステナビリティAI</p> <p> Rimba</p> <p>再生可能エネルギー向けサステナビリティ報告自動化</p>
<p>創薬AI</p> <p> Anto Biosciences</p> <p>腸内マイクロバイオーム創薬AI</p>	<p>ボイスAI</p> <p> toma</p> <p>自動車ディーラー向け音声AIエージェント</p>	<p>医療AI</p> <p>PIRAMIDAL</p> <p>脳波解析による神経疾患診断AI</p>
<p>製薬AI</p> <p> ReactWise</p> <p>化学プロセス最適化AIコパイロット</p>	<p>スマートシティAI</p> <p> ProkoPark</p> <p>AIセンサーによるスマート駐車管理</p>	<p>リサーチAI</p> <p>E[] ExpectedParrot</p> <p>AIエージェントによる市場調査自動化</p>

■ その他トピックス

Q4は広告投下により営業減益になるも、通期では全段階利益で黒字を確保

- ✓ Q4売上高2,351百万円 (Q3比△631百万円)。ハーフアニバーサリー実施の『オラドラ』の売上が想定を下回り減収
- ✓ Q4営業利益はハーフアニバーサリーの広告投下により費用が増加し、営業赤字 (△47百万円)。通期では83百万円と黒字を確保
- ✓ 経常利益はQ1の暗号資産評価益 (1,094百万円) が通期を牽引。Q4も197百万円と安定推移

(百万円)

	2025年 4月期	2026年 4月期				
	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期
売上高	8,942	1,354	2,496	2,982	2,351	9,183
営業利益	370	72	△235	293	△47	83
経常利益	2,103	1,234	267	470	197	2,170
税引前利益	2,467	1,270	203	469	△419	1,524
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,063	1,247	103	496	△393	1,454

四半期・累計の前年同期比較

(百万円)

QonQ	累計YonY
△631	+241
△340	△287
△273	+66
△888	△943
△889	△608

※QonQはQ3比、YonYは前期通期比

モバイルゲーム事業は営業赤字
ブロックチェーン等事業は安定収益を継続

モバイルゲーム事業

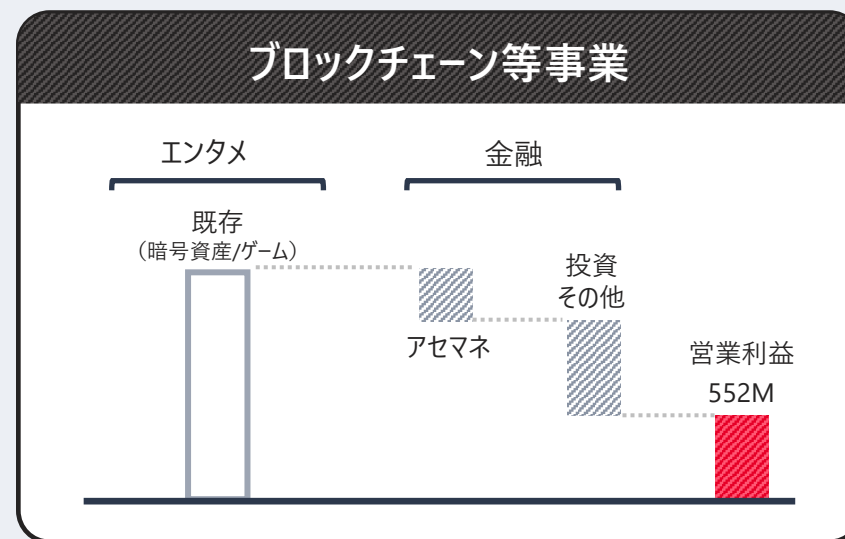
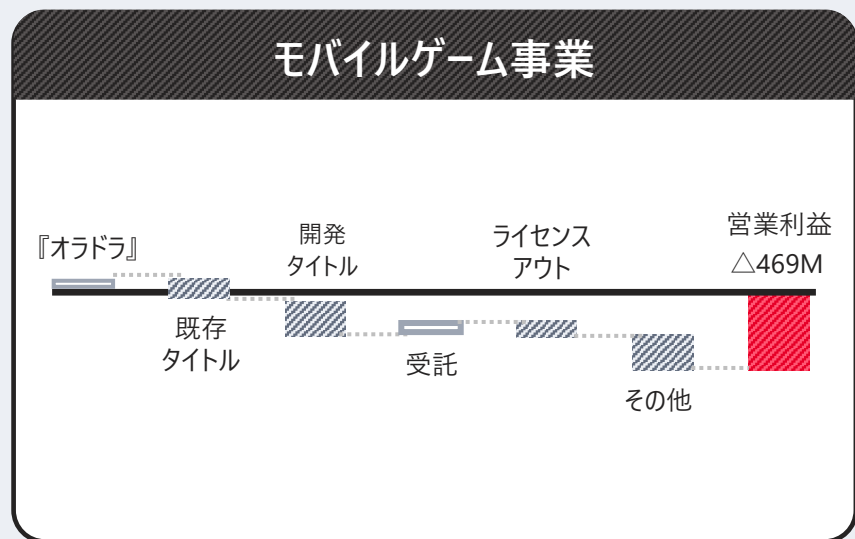
『オラドラ』において、Q4にハーフアニバーサリー広告を投下したが売上が想定を下回り、通期営業利益は△469百万円

ブロックチェーン等事業

エンターテインメント領域の暗号資産の受領が安定的に継続し、セグメント全体の営業黒字 (+552百万円) を牽引

営業損益イメージ (通期)

□ プラス要因
▨ マイナス要因



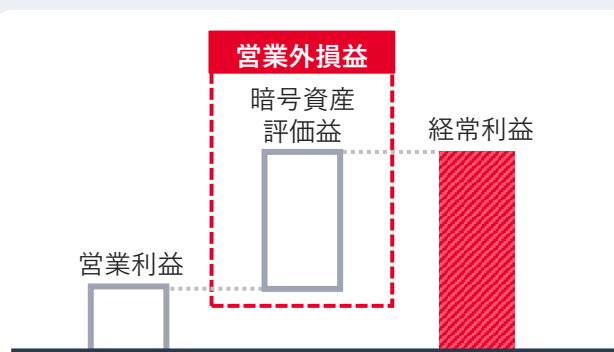
エンターテインメント領域の暗号資産評価益が経常利益を牽引
一方、金融領域は市況変動の影響を受け、経常損失

- ✓ エンターテインメント領域は、継続的に受領している暗号資産の価格上昇に伴い、通期で経常利益を計上
- ✓ ノード運営・アセットマネジメント領域は、リバランス等の運用により損失幅を一定抑制したものの、暗号資産市場の変動の影響を受け、経常損失を計上
- ✓ 投資その他領域は、当社グループが運営するファンドから、持分法による投資損失が発生し、経常損失を計上

ブロックチェーン等事業の営業外損益イメージ（通期）

□ プラス要因
▨ マイナス要因

エンターテインメント領域/ ゲーム、プラットフォーム



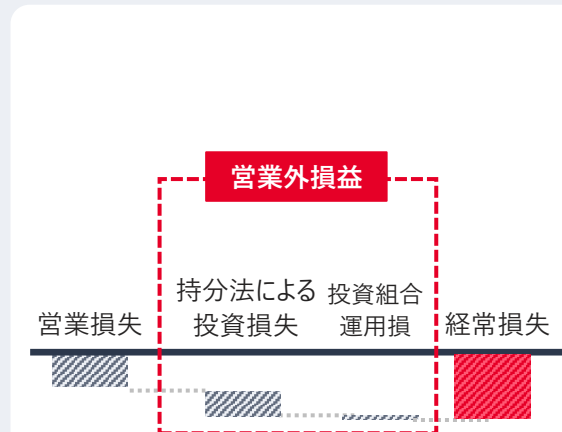
暗号資産の評価益により
セグメント別経常黒字を牽引

金融領域/ノード運営・ アセットマネジメント



暗号資産の評価損等により
経常損失を計上

金融領域/投資その他



投資損失等が発生したことにより
経常損失を計上

その他トピックス 暗号資産の積み上げ

- ✓ 当社グループ（ファンドを含む）における保有/運用暗号資産残高は**260億円規模**
- ✓ 今後、SBI Crypto Fundの組成により、さらに積み上がる見込み

(百万円)

		投資対象	暗号資産残高		収益の種類
			Q3 末時点	Q4 末時点	
gumi グループ	gumi Hinode Technologies (gumi×TIS) 他グループ各社	上場暗号資産 ^(※)  bitcoin  XRP …	12,833	14,133	値上がり益 運用益

		投資対象	暗号資産残高		収益の種類
			2025年12月末時点	2026年3月末時点	
ファンド	gumi Cryptos Capital 1号	上場暗号資産	5,864	5,629	値上がり益
	gumi Cryptos Capital 2号	非上場暗号資産	6,491	6,294	
	DECIMA	上場暗号資産	—	数十億円規模	
	SBI Crypto Fund (gumi × SBI)	上場暗号資産	—	数十億円規模	

- 上記ファンドの暗号資産残高は3月末時点の情報をもとに記載しており、会計監査を受けたものではありません
- 上記数値は、トークン取得を目的としたSAFE等による出資残高を含みますが、株式への出資残高は含まれておりません
- 各ファンドについては、当社の関連会社となり、当社の持分が各々異なるため、当社帰属分はそれぞれ異なります

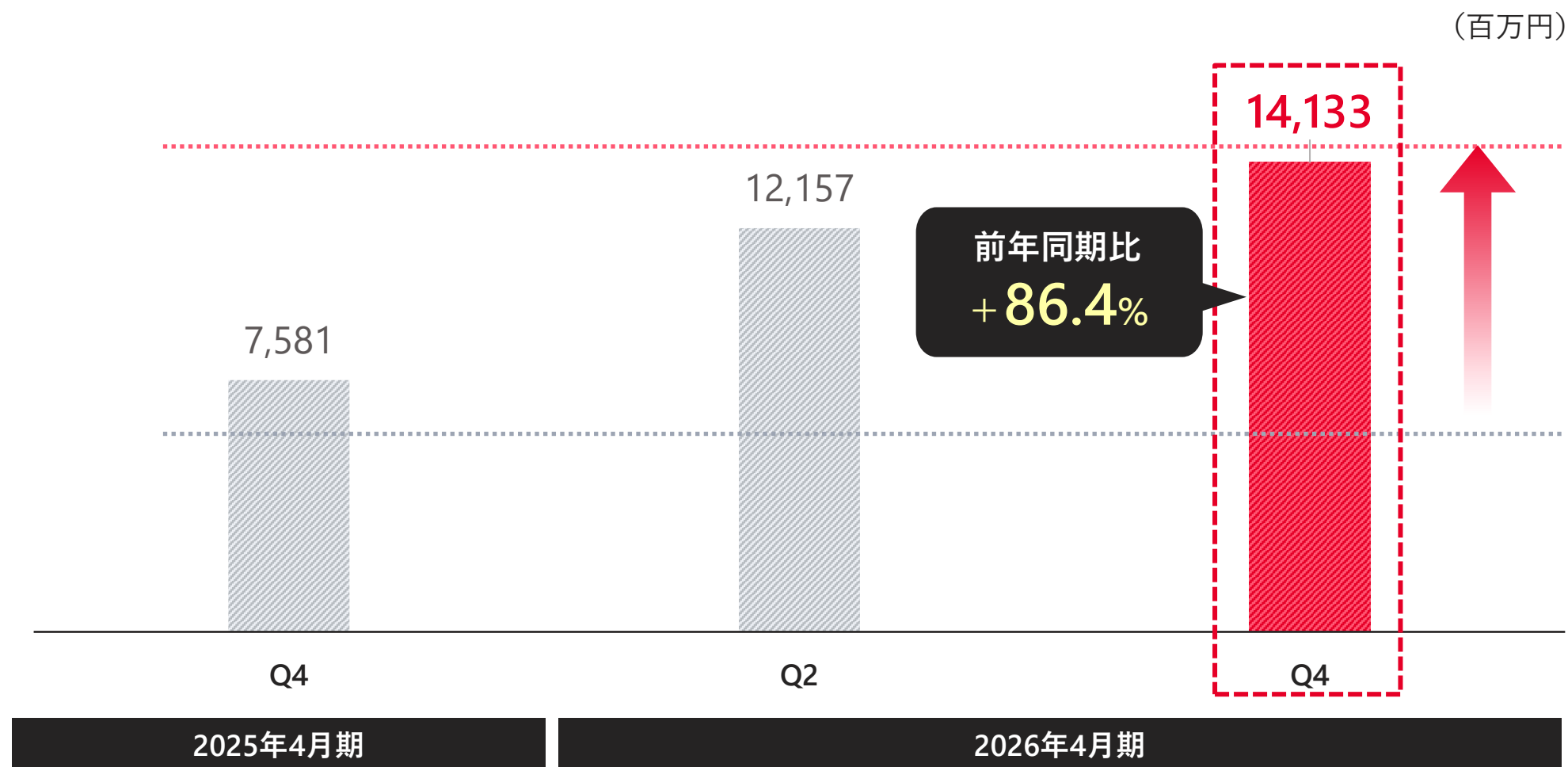
「収益の種類の意味」

値上がり益 : 保有資産価格の上昇による利益
運用益 : ステーキング報酬などの継続収益

その他トピックス gumiグループ（ファンド除く）が保有する暗号資産残高の推移

- ✓ 当社グループ（ファンドを含む）における保有/運用暗号資産残高は**+86.4%の141億円規模**
- ✓ 今後、SBI Crypto Fundの組成により、さらに積み上がる見込み

gumiグループが保有する暗号資産の残高推移（ファンドは除く）



■ 各事業の進捗

戦略

『有力IP×自社ゲームエンジン』モデルの横展開

他社IP

大型IPタイトル **4** 本

『僕のヒーローアカデミア UNITED SURVIVAL』



2027年4月期（2026年内）の配信予定。
 自社ゲームエンジンを活用し、想定スケジュール通り進捗

他3本の配信時期 **P14をご参照**

▶ 複数の大型IPを配信予定

その他パイプライン

開発受託 **1** 本開発状況 **アルファ版**

韓国の手ゲームパブリッシャー及び日本のIP企画会社との計3社間において、ストーリードリブン型のサブカルチャー系モバイルRPGを開発中

企画・開発中 **1** 本ステータス **企画調整後、開発着手予定**

その他複数の大型IPについても、版元と最終交渉中

戦略


長期的な市場拡大トレンドを背景に、
安定収益の確保と暗号資産価格の上昇による収益拡大を目指す

2026年4月期の注力施策

- ▶ アセマネ体制の強化 **25年4月～** Hinode Technologies(TISとの合併)設立し、運用を強化
- ▶ XRP戦略 **2,500百万円** を目標に取得
- ▶ 暗号資産のオプション取引 **試験運用** を開始
- ▶ 新規事業開発 **2件** ヨソクヒロバ（予測市場） / 公式二次創作プラットフォーム

事業基盤

エンタメ領域

 OSHIトークン /
FCTトークンの継続受領

経常利益を牽引

 **OSHI3**

大手企業との
パートナーシップ拡大

金融領域

ノード運営

11 件を運用中

ファンド

投資倍率 **7.6** 倍

**gumi
Cryptos
Fund I**

回収フェーズ

AI投資

17 件

シリコンバレー
AIスタートアップへ
シード投資

■ 業績の推移

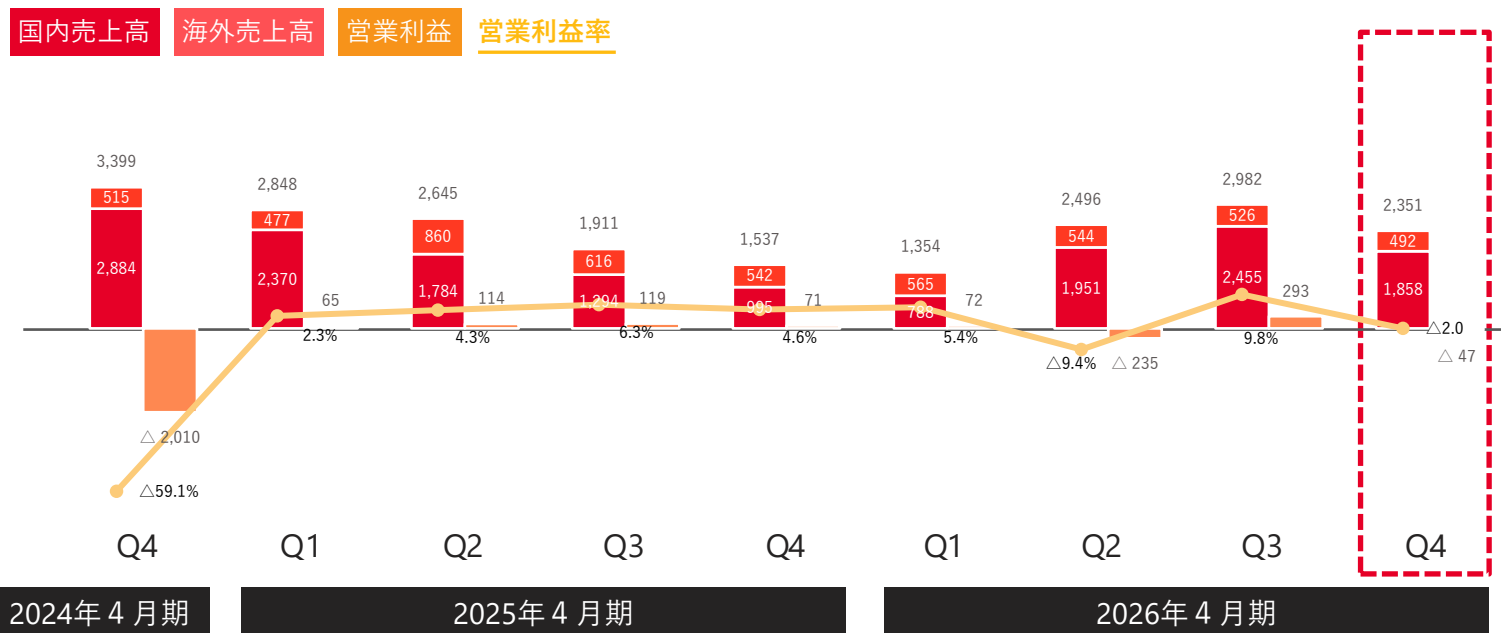
四半期業績の推移 (売上高・利益)

ハイライト

- ✓ 売上高は、『オラドラ』のハーフアニバサリーにおいて想定を下回る売上となり、Q3比で減収
- ✓ 営業利益は、『オラドラ』のハーフアニバサリーにおいて投下した広告宣伝費を回収できず減益

売上高及び営業利益

(百万円)



売上高

23.5億円

YoY +52.9%
QonQ △21.2%

営業利益

△0.4億円

YoY -
QonQ -

海外売上高比率

20.9%

(百万円)	2026年4月期 Q4	2025年4月期 Q4	前年同期比	2026年4月期 Q3	前四半期比
売上高	2,351	1,537	+52.9%	2,982	△21.2%
売上原価	1,765	1,032	+70.9%	2,040	△13.5%
売上総利益	585	504	+16.0%	942	△37.8%
売上総利益率	24.9%	32.8%	-	31.6%	-
販売管理費	632	433	+45.9%	648	△2.4%
営業利益	△47	71	-	293	-
営業利益率	△2.0%	4.6%	-	9.8%	-
経常利益	197	1,036	△80.9%	470	△58.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△393	557	-	496	-

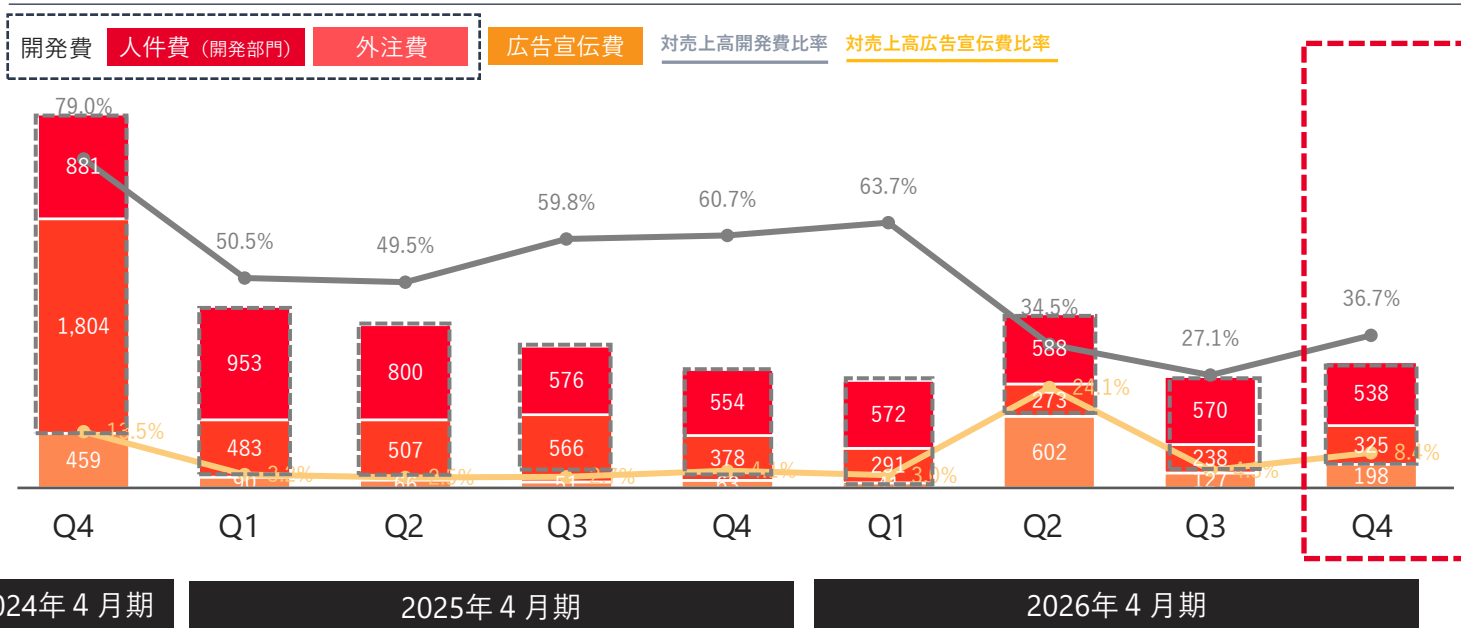
四半期業績の推移（費用）

ハイライト

- ✓ 開発費は、Q3とほぼ同水準で維持
- ✓ 広告宣伝費は、『オラドラ』のハーフアニバサリー実施により、0.7億円増加

開発費及び広告宣伝費

（百万円）



開発費

8.6億円

YonY Δ 7.3%

QonQ +6.8%

広告宣伝費

1.9億円

YonY +211.1%

QonQ +55.8%

対売上高広告宣伝費比率

8.4%

(百万円)	2026年4月期 Q4	2025年4月期 Q4	前年同期比	2026年4月期 Q3	前四半期比
売上原価	1,765	1,032	+70.9%	2,040	Δ 13.5%
支払手数料	682	321	+112.2%	904	Δ 24.5%
人件費	538	554	Δ 2.8%	570	Δ 5.6%
外注費	325	378	Δ 13.9%	238	+36.7%
通信費	144	113	+27.9%	188	Δ 23.3%
その他	73	Δ 334	-	138	Δ 46.7%
販売管理費	632	433	+45.9%	648	Δ 2.4%
広告宣伝費	198	63	+211.1%	127	+55.8%
人件費	245	146	+67.3%	307	Δ 20.2%
その他	189	223	Δ 15.3%	213	Δ 11.4%

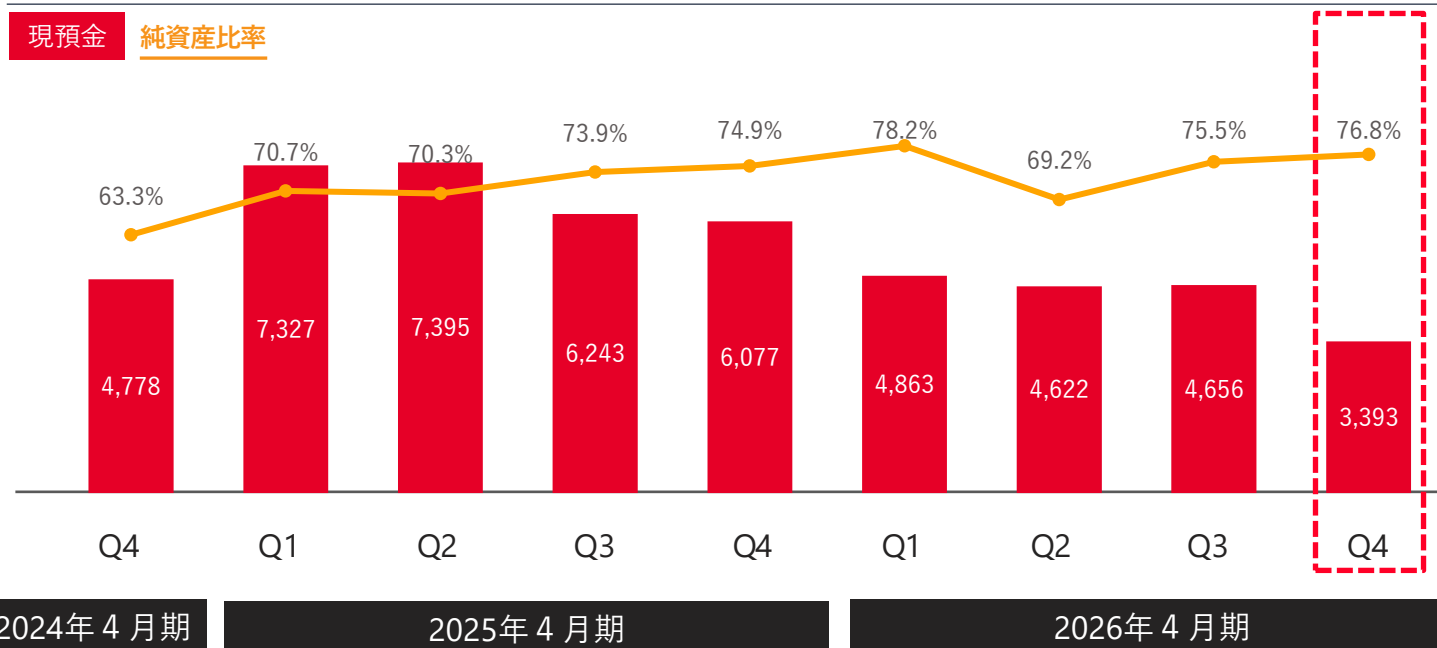
四半期業績の推移 (BS)

ハイライト

- ✓ 現預金は、『ヒロアカ』や新規大型IPタイトルの開発投資、および一過性の支払いがQ4に集中したことにより、前四半期比で減少したものの、想定の範囲内で推移
- ✓ 純資産比率は76.8%と引き続き健全な水準を維持

現預金及び純資産比率

(百万円)



現金及び預金

33.9億円

YoY Δ 44.2%

QoQ Δ 27.1%

純資産比率

76.8%

(百万円)	2026年 4月期 Q4	2025年 4月期 Q4	前年同期比	2026年 4月期 Q3	前四半期比
流動資産	20,443	15,736	+29.9%	19,901	+2.7%
現金及び預金	3,393	6,077	Δ 44.2%	4,656	Δ 27.1%
固定資産	8,377	8,148	+2.8%	9,973	Δ 16.0%
総資産	28,821	23,884	+20.7%	29,874	Δ 3.5%
流動負債	6,224	5,112	+21.7%	6,657	Δ 6.5%
固定負債	462	892	Δ 48.1%	648	Δ 28.6%
純資産	22,134	17,880	+23.8%	22,568	Δ 1.9%

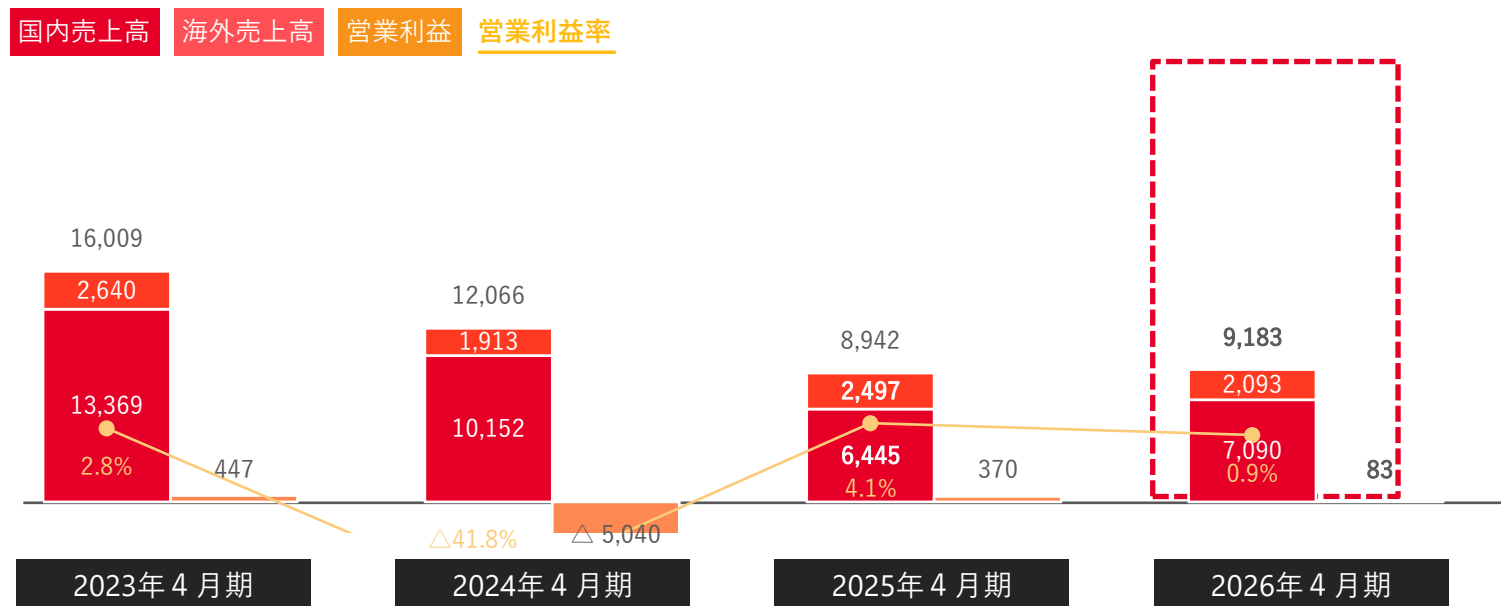
通期業績の推移（売上高・利益）

ハイライト

- ✓ 売上高は、2025年9月にリリースした『オドラ』が概ね好調に推移し、売上高が伸長したことにより増収
- ✓ 営業利益は、『オドラ』の広告宣伝費が一時的に増加したことから、減益

売上高及び営業利益

(百万円)



売上高

91.8億円

営業利益

0.8億円

海外売上高比率

22.9%

(百万円)	2023年4月期	2024年4月期	2025年4月期	2026年4月期
売上高	16,009	12,066	8,942	9,183
国内売上高	13,369	10,152	6,445	7,090
海外売上高	2,640	1,913	2,497	2,093
営業利益	447	△ 5,040	370	83
営業利益率	2.8%	△ 41.8%	4.1%	0.9%
経常利益	△ 19	△ 4,514	2,103	2,170
親会社株主に帰属する当期純利益	445	△ 5,934	2,070	1,454

通期業績の推移（費用）

ハイライト

- ✓ 開発費は、開発体制の最適化を実施することにより、前期比で約14億円の減少
- ✓ 広告宣伝費は、新規タイトルである『オラドラ』のリリース前後のプロモーション強化に伴い、約7億円の増加

開発費

33.9億円

広告宣伝費

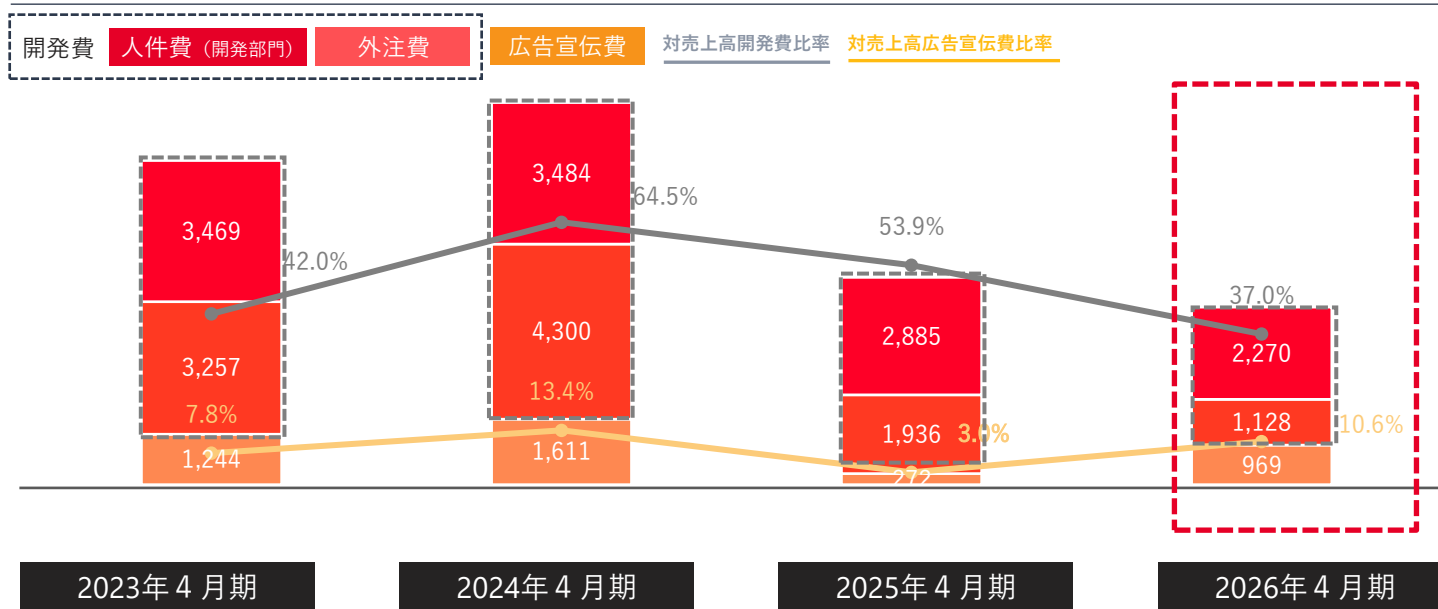
9.6億円

対売上高広告宣伝費比率

10.6%

開発費及び広告宣伝費

(百万円)



(百万円)	2023年4月期	2024年4月期	2025年4月期	2026年4月期
開発費	6,727	7,785	4,822	3,399
人件費 (開発部門)	3,469	3,484	2,885	2,270
外注費	3,257	4,300	1,936	1,128
広告宣伝費	1,244	1,611	272	969
対売上高開発費比率	42.0%	64.5%	53.9%	37.0%
対売上高広告宣伝費比率	7.8%	13.4%	3.0%	10.6%

四半期業績の推移（人員数）

ハイライト

- ✓ 人員数は概ね横ばいにて推移
- ✓ 今後も必要に応じて体制の見直しを行い、コストの最適化を図る

人員数（連結）

（人）

国内拠点

海外拠点

人員数（連結）

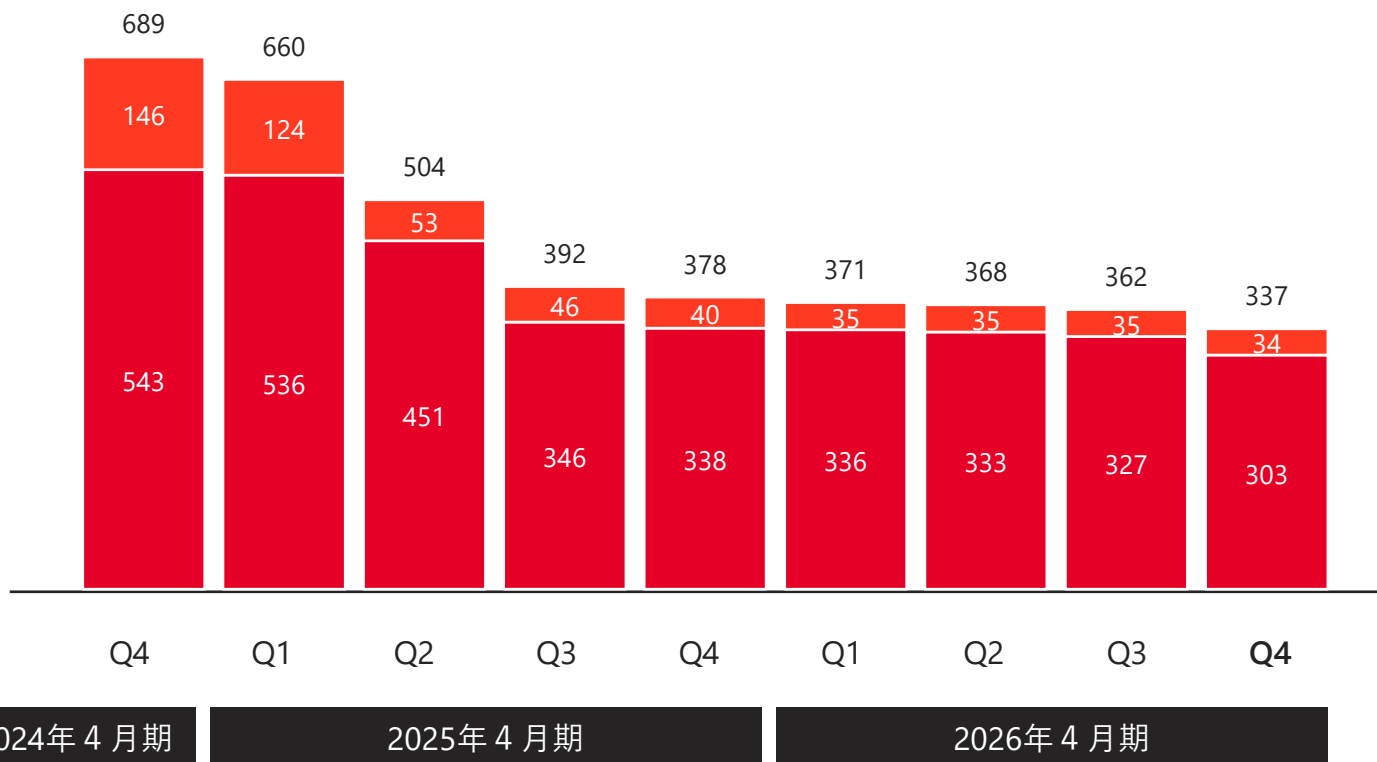
337

国内人員

303人

海外人員

34人



■ Appendix

主要な運営タイトルの状況

タイトル名	配信時期	サービス状況
クリスタル オブ リユニオン	2016年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 10周年記念施策等を実施 ✓ 有力IPとのコラボ等を予定
WAR OF THE VISIONS ファイナルファンタジー ブレイブエクスヴィアス 幻影戦争 (※)	2019年11月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ゲーム内外でグランドフィナーレ施策等を実施 ✓ 2026年 5 月28日をもってサービス終了
ラグナドール 妖しき皇帝と終焉の夜叉姫	2021年10月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 4.5周年記念施策等を実施 ✓ 季節イベント等を予定
ファントム オブ キル -オルタナティブ・イミテーション-	2024年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2 周年記念施策等を実施 ✓ 2026年 7 月30日をもってサービス終了を予定
ジョジョの奇妙な冒険 オラオラオーバードライブ	2025年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 0.5周年記念施策等を実施 ✓ 季節イベント等を予定

OSHI3とは（再掲）

ブロックチェーン等事業の中核となる新たなトークン経済圏を立上げ（OSHI3）

 **OSHI3** とは

ブロックチェーン技術

×

コンテンツプラットフォーム



既存の“押し活”をデジタル領域にまで拡張

新たなトークン経済圏を構築

本資料は、株式会社gumi（以下「当社」といいます。）並びにその子会社及び関連会社（以下、当社と併せて「当社グループ」と総称します。）の財務情報、経営情報等の提供を目的としたものです。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業等に関わる情報及び当社グループ以外の第三者の作成に係る情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、かかる情報の正確性、完全性及び適切性等について何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本資料に含まれる全ての情報は、予告なしに変更される場合があります。

本資料は、当社の有価証券の取得に係る投資勧誘を目的としたものではなく、当社の有価証券への投資判断にあたって必要な全ての情報が含まれているわけではありません。

Wow the World! **gumi**

～ すべての人々に感動を ～